

新除草・調節剤

子を振り落しがちなこと、散布後、短時間で降雨に洗い流されないようにすることなどに注意していただきたい。朝露のある時や、夕方風がおさまって空気の湿ってくる時は、良い結果の得られるものである。

タフラー[®]乳剤・水和剤
ブタミホス除草剤

(取扱メーカー) キング化学工業株式会社

対象作物：芝（コウライシバ・ヒメコウライシバ・ノシバ）。

成分・作用特性：0-エチル-0-(3-メチル-6-ニトロフェニル)-N-セカンダリ-ブチルホスホロチオアミデートを50%含有する乳剤と40%を含有する水和剤とがある。本剤は、主として雑草の幼芽部に接触・吸収されて作用を発揮する。本剤が植物の生長点に接触すると、生長点の細胞数の増加が抑えられる。この細胞分裂の阻害が、殺草性に結びつくと考えられる。

毒性：普通物で、魚毒性はB類である。

使用方法：登録されている使用基準は、次の通りである。

使用上の注意：①本剤は雑草発生前処理の効

タフラー乳剤・水和剤の使用基準

剤型	作物名	適用雑草名	使用時期	使用量 (ml・g/10a)	散布液量 (l/10a)	使用方法
乳剤	芝 〔コウライシバ・ヒメコウライシバ・ノシバ〕	畑地一年生雑草 〔キク科を除く〕	春期又は秋期雑草発生前	春期 ml 1,000～2,000 秋期 600～1,000	250～300	土壌全面散布
			秋期雑草発生前	1,000～1,200 g		
水和剤	芝 〔コウライシバ・ヒメコウライシバ〕					

果は大きいですが、既発生の雑草には効果が劣るので、必ず雑草発生前に芝生全面にむらなく均一に散布する。②多年生雑草およびキク科雑草には効果が劣るので、それらが優占する場所での使用はさける。また、広葉一年生雑草の優占する場所では、所定範囲内で薬量を多目にする。③本剤は葉害のおそれがあるので、ターフ形成前の芝生には使用しない。④洋芝に対しては、使用しない。⑤本剤の使用により、ときには葉先の黄化等の葉害を生ずるが、やがて回復し、その後の影響は認められない。⑥土壌が極度に乾燥している場合には、事前に散水するか、または散布液量を多目にする。⑦散布の際は、草花・植木など、周辺の植物にかからないように注意して散布する。

本誌掲載原稿の募集

本誌を愛読されている皆様より、原稿を募集しておりますので、ご寄稿下さい。内容は、除草剤・生育調節剤に関する記事であればよく、400字詰原稿用紙で20～30枚位、図・写真の挿入も可。原稿料は、当協会の規程によりお支払いいたします。